

〈健康教育〉

望ましい行動選択を目指す性教育 —実態やニーズに応じた授業形態の工夫を通して—

沖縄県立小禄高等学校養護教諭 喜 瀬 実名子

I テーマ設定の理由

近年、我が国では、子どもたちを取り巻く環境の変化に伴い、子どもたちの健康にとって深刻な問題が起きている。中でも性の問題行動においては、十代の性感染症や妊娠・人工中絶の増加、携帯電話を利用した性被害が後を絶たないことから、学校における性教育の充実が求められている。

平成11年3月、文部科学省は「学校における性教育の考え方、進め方」を編集発刊し、指導の充実を図ってきた。しかし、指導内容の一部が行き過ぎた性教育であるという見解から、全国の中学生向けに配布される予定であった小冊子が配布中止になるという事態も生じた。行き過ぎた性教育とは、生徒にとって必要でない内容が指導されることを指しており、寝た子を起こしたり、性交容認メッセージとして受け取られたりする可能性があるという理由から問題視された。しかしその一方で、リスクを懸念するあまり必要以上にリスクのみが強調され、ネガティブなメッセージが伝わることは、将来の男女交際や結婚、妊娠、出産における意志決定に重大な影響を及ぼすとして危惧されている。

そのような中、木原雅子(2006)は、「性に関する問題行動を解決するためには、人生に夢と希望を持てる生徒を育て、生き方を考えさせる教育に重点を置くことが必要である」と述べた。その内容は、国及び世界的にも注目を集め、現在、文部科学省の委嘱事業として研究が続けられている。

本校において、保健室に来る生徒の相談内容は、一般的な体調に関することや性に関することなど様々である。中でも、性に関する悩みや相談はここ数年増える傾向にあり、一部のテレビ・インターネット等の過剰な情報や誤った情報に惑わされているケースが少なくないことから、正しい知識や情報提供の必要性を感じる。そこで、ホームルーム活動における性教育において、各分野の専門家等の活用による正しい知識・情報の伝達に努め、惑わされることのない望ましい行動選択につながる指導を実施したいと考える。その際、一クラスを5～6人のグループに振り分けた小集団の授業等を取り入れた段階的な指導により効果を図りたい。小集団の授業においては、○講師と近距離で質問ができる、○講師自身の経験談を聞くことができる、○人間的な関わりを深めることができる、○疑似体験できる、○自分自身の生き方に発展させて考えることができる等の事柄が、生徒の視野を広げることにつながり、望ましい行動選択を目指すことができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

性教育において、教師が生徒の実態やニーズに応じた授業形態を工夫することにより、生徒は、性に関する正しい知識を身に付けることができ、生き方を考え、望ましい行動選択を目指すことができるであろう。

II 研究内容

1 望ましい行動選択について

針間克己(2003)は、望ましい行動とは「多様な価値観の中でも自分自身にとって良いとされる行動のことで、自分の将来の夢や自己実現に向けて必要不可欠な行動であり、その内容は個々によって異なるものである」とし、望ましい行動選択とは、「正しい情報を十分に理解し、行動の結果起こりうることを予想するとともに、その結果が自分自身の責任に基づくという自覚に立った上での行動選択である」としている。そこで、本研究においても、性の問題を未然に防ぐことが可能であることを考えさせるとともに、大人が結論を押しつけるのではなく、主体的な行動選択につながる指導の工夫を考慮した内容の展開にしていく。その際、生徒が自分自身の価値観に則りながら、建設的で有益な行動を選択できるよう工夫したい。特に、アイデンティティを確立する時期にある高校生に正しい知識を与え将来の夢や目標を持たせることは、今後において、課題に直面した際の対処能力を身に付けることにつながるのではないかと考える。

2 性教育について

(1) 学校における性教育の必要性について

文部科学省の「学校における性教育の考え方、進め方」では、「学校はすべての児童生徒等に対して、人間尊重、男女平等の精神の徹底を図るとともに、人間の性に関する基礎的・基本的事項を正しく理解させ、同性や異性との人間関係や現在及び将来の生活において直面する性に関する諸問題に対して、適切な意志決定や行動選択ができるよう性教育を充実する必要がある」としているが、現状の学習内容において、それらの指導が十分でないことが分かってきた。そこで、その問題を解決するための一助として、性差を考慮した指導や段階を追う指導の導入も必要ではないかと考えた。

(2) 性教育の内容について

田中紗世(2001)は、性教育の内容について、段階を追うことの重要性を述べている。「まず、自分の体や性にしっかりと向き合わせることが重要である。そのためには、自分の体が生命を生み出す体へと変化していることを知らせることが大切であり、生徒がそのことを受け入れて初めて、性を自分自身の問題であるという捉え方ができるようになる」と述べている。そのことから本研究では、男女別の小集団授業において、男女の性差を考慮し、男子については、女性の体を守り責任ある行動の意識を高める内容等とし、女子については、望まない妊娠や性感染症のリスクから自分の体を守るという行動の意識を高める内容等とする。そして、この指導が望ましい行動選択につながるには、生徒に正しい情報に基づいた行動選択の重要性を理解させ、実践化させることである。そこで、一斉授業において、身近な内容である生徒自身の将来の夢や目標の実現に向けた具体目標を立てる活動を取り入れる。目標を具体化させる作業の中で将来への展望を語らせることは重要と考える。そこで、一斉授業と小集団授業の各々の利点について取り上げた。

3 授業形態の工夫について

指導の効果を図る上で授業形態の工夫を行うことが大切な要素と考え、本研究における授業形態各々の利点を取り上げる。

(1) 小集団の授業の利点

高校生は同じ学年であっても性に対する興味関心や行動など個人差が大きいことが考えられるため、生徒の多様性を考慮した小集団の授業を取り入れることで、効果的な指導ができると考える。小集団の授業では、性差、知識理解度、興味関心によって小集団を編成し指導を進める。そのことは、生徒一人一人に対して理解度を確認しながら進められるため、個人の課題解決に対する内容にもつながると考える。小集団の授業のメリットは、○静かで、講師の声がよく聞こえる人的環境、○ゆったりとしてゆとりを感じる空間的環境、○生徒が自ら学習内容を選択できること、○学習できる教材の保障、○生徒の興味関心・個人差に対応できることがあげられることから、自覚を促す内容にも発展させる。なお、講師には各分野の専門家等を招聘し、内容の充実を図る。打ち合わせにおいては、○事前調査の内容と集計結果、○授業案、○参考資料、○担当する生徒の実態を提示し、授業の中で指導のねらいに沿った内容を講師の独創性、専門性をもって進めていく。

(2) 一斉授業の利点

一斉授業とは、クラス全体が学習目標、学習内容、学習教材、学習方法、学習時間、学習場所を共有する授業形態である。生徒に共通の内容を伝える場合や多様な考え方や見方を身に付けさせようとする場合に効果的である。一斉授業では、個として学ぶことと集団での交流を通しての学びを両立させ、生徒が互いに励まし合い、刺激し合いながら課題に取り組むことができる。そこで、シェアリングから得た多くの考えを参考に、自己の目標を焦点化し、実践化を図ることにつながると考える。

(3) 段階的な指導とは

段階的な指導とは、発達段階を考慮した指導のことである。本研究における発達段階の内容は、性に関する知識理解度を含むものとし、小集団の授業と一斉授業の中で考慮していく。

性に関する問題を自分にも関係する問題であると捉え、望ましい行動選択を目指す生徒を育成するために、生徒の心身の調和的発達を考慮しながら段階的な指導に当たることは必要可決である。(表1)。その中で、第一段階では、クラス全員の向かう目標が同じであることを認識させ、連帯感を持たせるため、TTによる一斉指導を実施する。同時に、性に関する知識の調査、事前アンケート、テーマ希望調査を実施し生徒の実態やニーズを把握する。第二・第三段階では、実態やニーズに応じた小集団の授業を実施し、望ましい行動選択につながる知識を身に付けさせ、自覚を促すため、生徒が性を自分の生き方に結びつけるような内容とする。第四段階では、第三段階までに学んだことを土台に自分らしい生き

方について生徒自身に考えさせるため、シェアリングを兼ねた発展的な内容として、T Tによる一斉指導を実施する。

表 1 段階的な指導の内容

	ねらい	方法	内容	講師	備考（留意点）
第一段階	○同じ目標に向かって学ぶという連帯感を持たせる ○生徒の実態やニーズを把握する	一斉 (男女共通)	○オリエンテーション ○性に関する知識の調査 ○性に関する意識の調査 ○テーマ希望調査	○担任・養護教諭(T T)	○テーマ希望調査は第三希望まで記入させ、人数調整にあてる。 ○小集団編成後、講師を選定し、依頼、調整等を行う。
第二段階	○自分の体が生命を生み出す体へと変化していることを理解させる ○体や性に関する不安や悩みを解消させる	小集団 (男女別・知識理解度別)	自作資料、ワークシート等を通して体の仕組みについて理解させる。性差を踏まえた内容とする。	○高等学校校長(保健体育教師) ○大学講師 ○保健師 ○養護教諭(妊婦、退職者)	○テーマ別に、各々の教室で実施する。 ○同性の講師とする。
第三段階	○生徒の興味関心のあるテーマについて疑似体験等を含む課題解決の方法について考えさせる ○大人の生き方を通して自分らしい生き方を模索させる	小集団 (男女共通・テーマ別)	自作資料、写真アルバム、沐浴人形等を通して結婚、妊娠、性感染症等の実際について学ばせる。自分にも関係することとして捉えさせ、自分らしい生き方について考えられるような内容とする。	○養護教諭(育児中の母親) ○母子推進員 ○専門学校副学 校長 ○病院助産師 ○保健師(妊婦) ○身体・知的障害者更生相談所 所長	○テーマ別に、各々の教室で実施する。 ○1つの小集団で男子、女子が1人にならないよう配慮する。 ＜テーマ＞ ① 子育ての実際 ② 性感染症の予防法と治療法 ③ エイズの現状と予防法 ④ 妊娠から出産の過程 ⑤ 結婚を決めるときの心がまえ
第四段階	○将来の目標や夢の実現に向けた望ましい行動選択をするための具体策について考えさせる	一斉 (男女共通)	行動選択の重要性について理解させ、目標設定や将来の目標達成のためにすべき事について考えさせる。グループでシェアリングさせる。	○担任・養護教諭(T T)	○ワークシートを活用する。

Ⅲ 指導の実際

1 生徒の実態調査結果

授業前、本校1年A組の生徒を対象に「性に関する知識」と「性に関する意識」のアンケート調査を行った。「性に関する知識」の各項目の正解率は50%を下回るものが多く、性についての正しい知識に乏しいことが分かった。しかし、「性に関する意識」において、「一日一日を大切に生きようとしているか」の問いに「とてもそうしている・そうしている」と回答した生徒が81.8%と高く、また、「高校生が性交した場合の問題として考えられるもの」の問いについては、「望まない妊娠」「性感染症」「エイズ」と回答する生徒が最も多く、「特に問題はない」と回答した生徒は一人もいないなどリスクについても認識していることが分かった。一方、「一般的に高校生が性交することをどう思うか」の問いについては、男子の58.3%、女子の63.2%が「かまわない・どちらかといえばかまわない」と回答し、さらに、「高校生の男女交際で愛情があれば性交してもいいと思うか」の問いについて、男子の66.7%、女子の52.6%が「かなりそう思う・そう思う」と回答している。この結果から、生徒は、性交した場合の問題について挙げることはできるものの、半数以上が肯定的な意見を持っており、性交リスクに対する認識の甘さが見えることから、望ましい行動選択に結びつきにくい状況であることが分かった。

そこで、望ましい行動の判断基準となる正しい知識や性交リスクを回避する態度を身に付けさせ、生き

方や将来の夢や目標について考えさせ、性交リスクが将来の夢の実現にも影響することに気づかせる手だてを講じる。

2 指導計画

生徒の実態調査の結果を踏まえ、生徒の実態やニーズに応じた性教育を次のように計画した（表2）。1時間目の授業では、アンケート調査結果を基に、男女別・知識理解度別に小集団を編成する。授業は、主に自分の体に関する内容とし生徒自身の悩みや質問にも対応できるカウンセリング的な展開で理解を深める（表3）。2時間目の授業では、生徒が選択した男女共通のテーマ別の小集団による授業を実施し、自分が学びたいテーマを通して、生き方、自分の行動の在り方について考えさせる。3時間目の授業では、クラス全員の一斉授業で将来の夢や目標について考えさせる授業を実施する。ワークシートの活用により、将来の夢や目標を具体的に設定させ、その達成に向けてすべきことを考えさせ、自らの望ましい行動選択を目指す生徒の育成につなげていきたいと考えた。

表2 指導計画と内容

月日	計 画	内 容	備 考
10/2 SHR	オリエンテーション 性に関する知識の調査 テーマ希望調査	めあてやこれからの取り組みについて 思春期の体のメカニズム、性感染症について等 希望するテーマとテーマの中で聞きたいこと（第三希望まで記入）	記名式
10/2 自宅	性に関する意識の調査	高校生の性交に対する意識、性に関する悩み、将来の夢等	無記名式
10/2 自宅	保護者のアンケート調査	保護者の結婚、出産、育児等の経験や考え方、高校生へのメッセージと男女交際についての提言	無記名式
	11/21、11/26の授業に向けた小集団編成、講師選定、依頼、打ち合わせ 生徒へ各自の受講テーマ、講師、授業会場通知		
11/21 LHR	男女別・知識理解度別の小集団授業		7グループ
	「思春期の体と性の悩み（男子）」	男性の体の仕組み、思春期男子に多い性の悩み、男女交際のあり方 講師：高等学校校長（保健体育教師）、大学講師、市役所保健師	6名×3グループ *表3参照
	「思春期の体と性の悩み（女子）」	女性の体の仕組み、思春期女子に多い性の悩み、男女交際のあり方 講師：高等学校養護教諭2名、元養護教諭2名	6名×3グループ 5名×1グループ
	授業形態についてのアンケート、感想		授業後に記入
11/26 LHR	テーマ別編成による小集団授業		7グループ
	「子育ての実際」	子供の成長過程と育児の心構え、育児費用、子育てを支援する環境 講師：中学校養護教諭、母子推進員	6名×2グループ
	「性感染症の予防と治療」	罹患者の現状、身体症状、治療法、性的ネットワーク、予防法 講師：専門学校副学校長、病院助産師	5～6名×2グループ
	「エイズの現状と予防法」	感染者や患者の現状、感染経路、検査方法、治療法、予防法 講師：高等学校養護教諭	6名×1グループ
	「妊娠から出産の過程」	生命誕生、胎児の成長、妊娠期の過ごし方、妊婦への接し方 講師：市役所保健師	6名×1グループ
	「結婚を決めるとき の心構え」	パートナーを選ぶときに考えることや人間関係作り、デートDV 講師：身体・知的障害者更生相談所所長（元児童相談所・女性相談所所長）	6名×1グループ
	授業形態についてのアンケート、感想		授業後に記入
12/5 LHR	「望ましい行動選択 について」	将来の目標や夢の実現に向けた望ましい行動選択をするための具体策	一斉指導
	授業についてのアンケート、感想、性に関する知識の調査		授業後に記入
12/6 自宅	授業後調査	授業前調査と同じ	無記名式

表3 小集団の授業の指導例（男子のみ）

日時／テーマ	11月26日（月）4校時／思春期の体と性の悩み（男子）
--------	-----------------------------

目標	体の仕組みを理解することで、体に対する不安や悩みを解消し、性衝動をコントロールする意識を高める。
授業内容	下記の項目について、質問を投げかけながら生徒の疑問や悩みに答える形で展開した。 - 思春期男子における体のメカニズム ○勃起・射精・夢精について ○ストレスの対処について - 思春期男子に多い体の悩み ○マスターベーションについて ○包茎について ○性器の大きさについて - 男女の性的欲求の違い - 性情報について - 性交のリスクについて
講師／対象	大学講師（男性）／男子6名
講師の感想	生徒はきちんと話を聞き、質問も活発で、悩みや疑問に思っていることを引き出すことができた。生徒が知りたいことを事前に把握して授業に望んだので進めやすかった。部屋の確保もされていたのでよかった。

3 授業実践

(1) 検証授業（第3時間目／全3時間 平成19年12月5日(水)

5校時 対象：1年A組

- ① 授業内容：「望ましい行動選択について」
- ② ねらい：将来の目標や夢の実現に向けた望ましい行動選択をするための具体策について考える。

(2) 本時の流れについて

本時は、前時までの授業で習得した性に関する正しい知識を基に、将来の夢の実現に向けた望ましい行動選択について考えさせる。始めに、将来の目標を設定させ、目標達成のために今なすべきことをワークシート（図1）上で具体化させる。その内容について全員が発言できるように4～5人のグループを作り、可能な範囲でシェアリングさせ、将来について見方や考え方を広げさせる。また、目標達成の阻害要因についても取り上げ、それらのほとんどが自分で回避可能であることに気づかせることで、夢の実現を強固なものにしていく。そこで、保護者や教師等人生の先輩である大人からのメッセージ（表4）を聞かせ、望ましい行動選択について考えをまとめ、最終的には、自分の未来をシミュレーションする姿勢を目指す。

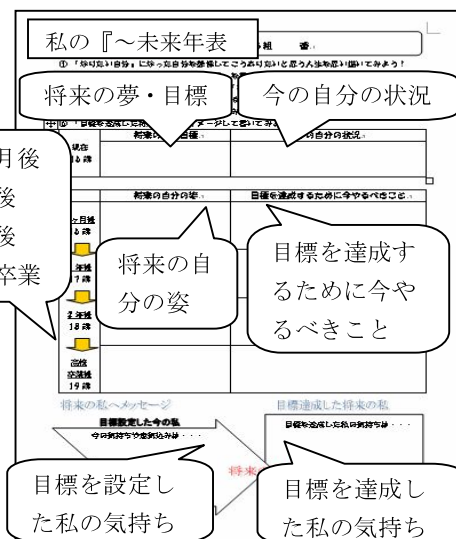


図1 ワークシート

(3) 本時の展開

T1：担任 T2：養護教諭

過程	指導内容	生徒の活動	教師の支援や留意点	準備するもの
導入 (5分)	○これまでの授業の流れと本時のめあてを確認する。 ○T2を紹介する。 ○これまでの授業で質問がないか呼びかける。 ○望ましい行動選択の定義について説明する(Power Point)。	○グループで座る。 ○説明を聞く。 ○質問する。 ○説明を聞く。	T1 ○出席点呼 T2 ○挨拶をする。 ○質問があれば答える。	○「前回の授業の流れと本時のめあて」フラッシュカード ○「望ましい行動選択について」(パソコン使用)
展開 (35分)	○本時の活動を説明する。 ○ワークシートの記入方	○説明を聞く。	T1, 2 ○ワークシートを配布する。	○ワークシート ○「ワークシート

	法について例を提示して説明する。(Power Point) ○ワークシートに記入させる。制限時間を設け、考えさせる(10分)。 ○グループ内で一人ずつ発表させる。 ○記入後、希望する生徒に発表させる。 ○保護者や本校職員等からのメッセージを紹介する。(Power Point) ○夢や目標の実現を阻害するものについて挙げさせ、自分で回避できるものか考えさせる。	○ワークシートに記入する。 ○一人ずつ発表する。 ○希望する生徒が数人発表する。 ○メッセージを聞く。 ○望まない妊娠、性感染症、喫煙、努力不足、自然災害、相手の過失による事故等と答える。	T1, 2 T1, 2 T1 T2 T2	○机間巡視し、記入を促す。 ○机間巡視し、発表を促す。 ○生徒に呼びかけて希望する生徒に発表させる。いなければ指名する。 ○阻害する要因が浮かばない場合は提示し、自分で回避できるものか考えさせる。	記入例」(パソコン使用) ○「保護者・本校職員・講師・学校関係者からのメッセージ」(パソコン使用) ○「夢や目標実現の阻害要因」(パソコン使用)
まとめ (10分)	○今日の授業やこれまでの授業を振り返りまとめる。	○まとめを聞く。 ○授業の感想を記入する。	T1, 2	○感想用紙を配布する。	○感想用紙

表4 大人からのメッセージ(一部抜粋)

保護者からのメッセージ	本校職員からのメッセージ	学校関係者からのメッセージ
・学生(高校生)の間は、一対一でなく、グループ交際をしてほしいです。 ・子供を育てるということは大変な事です。交際相手も将来の職業希望が明確な人等よく考えて選んでほしいです。 ・男女交際について反対はしませんが、安易に性的な関係を持って将来の夢や希望に支障が生じ、お互いを傷つけることがないようにしてほしいです。	・思春期の頃は、性といえはすぐいやすいことばかりを想像していた。大学生になって、ビデオや本は迫力やすごさを出すためにやっているだけだと知った。今は、性について考えるとき、人としての温もりとか、その人のことをもっと好きになるといった気持ちが湧いてくる。	・結婚を決める時、共に成長できる相手か考えてほしいです。親になるのは簡単ですが、子どもを立派に育てるのは何より難しいと思っていますからです。 ・男の子3人の父親として願うのは、「自分も相手も大切にしたい責任のあるつき合いの中でいい子をさがしてくれ!」ということです。

4 研究仮説の検証

生徒のニーズに応じた授業形態の工夫は、生徒が性に関する正しい知識を身に付け、生き方を考え、望ましい行動選択を目指すことに有効であったかを検証する。

(1) 検証の視点1: アンケート調査による検証

性に関する正しい知識を身に付けることができたかについて、授業前と授業後の「性に関する知識」の調査で正解率を比較したところ、「自分が知りたかったことや悩みについても相談ができたので満した」「分かるまで体の仕組みについて教えてくれた」などの感想とともに、すべての項目で正解率の上昇がみられた。特に1時間目の授業内容である思春期の体のメカニズムに関する項目では20%上昇の上昇がみられたことから生徒の実態に応じた授業形態は、生徒が正しい知識を身に付けることに有効であると考えられる。

次に、「性に関する意識」の調査においては、「一般的に高校生が性交することをどう思うか」の問いで「かまわない・どちらかといえばかまわない」と回答した男子が授業前58.3%から授業後27.3%に減少し、女子も授業前63.2%から授業後47.4%に減少した(図2)。男子では肯定的な回答を選ぶ割合が半分以下に減少したが、「分からない」という回答が増えていた。しかし授業後の感想から肯定的な見方から迷う段階に前進したと捉えることができ、指導の継続により性交リスクを回避する意識を高めた。また、「高校生の男女交際で愛情があれば性交してもいいと思うか」の問いについて、「かなりそう思う・そう思う」と回答した男子が授業前66.7%から授業後45.5%に減少し、女子も授業前52.6

%から授業後 15.8%に減少した(図3)。特に女子では、肯定的な回答を選ぶ割合が3分の1以下に減少した。女子は、授業を通して自分の体が生命を生み出す体へと変化することだけでなく、付随する現実的な課題が多いことを実感することで、自分の体や性にしっかり向き合うことが容易であったと考える。正しい知識を身に付けたことによって、性交に対する肯定的な意識にも大きな変容がみられ、慎重な行動につながるが考えられる。

以上の結果から、男女別・知識理解度別の小集団の授業は、生徒が性に関する正しい知識を身に付けるための手だてとして有効であるといえる。

(2) 検証の視点2：授業後の感想による検証

生き方について考えることができたかについて、2時間目の授業後に感想を書かせたところ、表5のように生き方に関する前向きな感想が述べられていた。2時間目の小集団の授業では、生徒の興味関心のあるテーマを通し性交リスクや生き方等について考えさせる内容を取り入れた。授業内容は性交リスクを伝えることのみにとどまらず、講師の生き方を通して結婚、妊娠、子育てについて喜びも伝える等、希望につながるよう工夫し、3時間目の授業で大人からのメッセージを紹介した。結果として、「親があのようなことを思っているとは思わなかった」「人生の先輩達からのメッセージは聞いていてとても感動した」「親の子供への思いを聞くことができて良かった」「大人が自分たち子供に対して何を求めているか分かった」など感動と共感を伴う内容の感想がみられた。木原雅子が、「家庭や地域、子ども同士、学校における人間的なつながりは、正しい情報や規範や心を伝える力を持ち、精神的支えが得られる」ことを述べているように、人間的なつながりを通して性に係る喜びや責任、リスクを大人自身の体験や気持ちとして伝えることが、生徒の意識の高揚や生き方を考えることにつながったと考えられる。

表5 2時間目の授業後の感想

- 結婚する時はしっかり自分にあった人と結婚する。 ○ 結婚して子供が生まれると夫の協力が大切だと思った。
- 性感染症の予防をしっかりしたいと思った。 ○ 子供を生む時期を良く考えようと思った。
- 子供をほしいというだけで簡単に作ってはいけなかったと思った。
- 若いうちに妊娠しない方がいいと思った。望まない妊娠はしない。
- 子供を育てるということは、自分の力だけではできないことが分かった。今までの自分中心の生活から子供中心の生活にガラッと変わることも知った。子育ては、自分が中心的にやらなければいけないけど、周りの人たちの力を借りることも大事だと分かった。

以上の結果より、生徒が自分の生き方について考えるためには、体験者から直接話を聞く等リアルな体験に加え、身近な問題として捉えさせる授業の工夫は有効であるといえる。

(3) 検証の視点3：ワークシートとアンケート調査による検証

3時間目の授業で記入させたワークシートにおける「将来の夢や目標」の集計結果によると、進学希望の生徒が43.6%、将来希望する職業を挙げた生徒が28.2%、就職希望の生徒が5.1%、進学または就職希望の生徒が5.1%であった。「目標を達成するために今やるべきこと」についての記入では、ほとんどの生徒が、日々の高校生活を充実させることや具体的な夢や目標を見つけ、それを達成するために取るべき行動について考えている記述がみられた(表6)。授業の中で「望ましい行動選択」とは「正

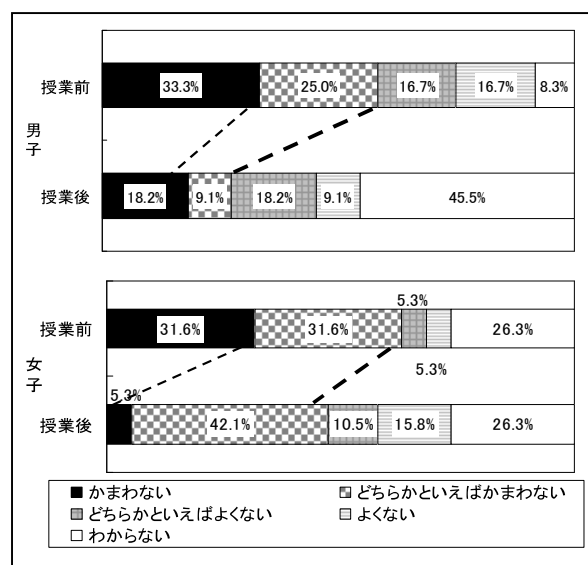


図2 一般的に高校生が性交することをどう思うか

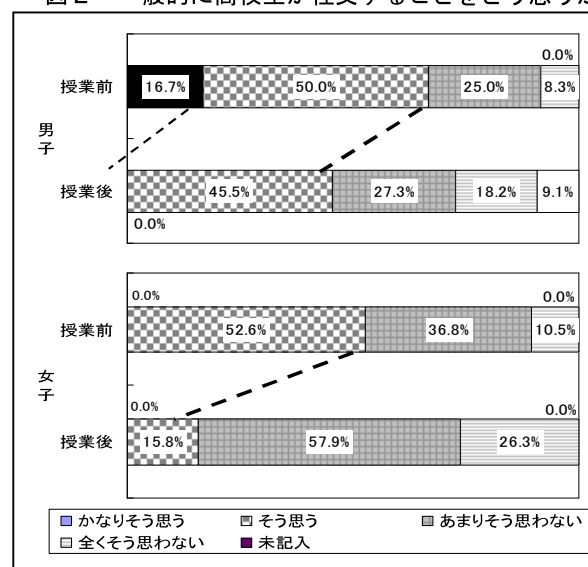


図3 愛情があれば性交してもいいと思うか

しい情報を十分に理解し、行動の結果起こりうることを予想するとともに、その結果が、自分自身の責任に基づくという自覚に立った上での行動選択である」ことを共通確認し、ワークシート上で「今の自分の状況」を具体化させるという形でまとめさせた。その結果、自分の将来への決意と自分にとって望ましい行動を目指す記述が授業後の感想の中に多くみられた（表7）。

表6 目標を達成するために今やるべきこと

- | | |
|---|-------------|
| ○ 部活を頑張る。 | ○ 受験勉強を頑張る。 |
| ○ 出席状況を良くする。 | ○ 資格検定を受ける。 |
| ○ 自分の行きたい専門・専修学校を探す。 | |
| ○ どうすれば会計士になれるのか詳しく調べる。 | |
| ○ 福祉系や看護系で、どんな仕事があるかパソコンなどで調べてみる。 | |
| ○ どの資格や教科がなりた職業に役立つか、図書館や周りの大人の人に意見を聞く。 | |
| ○ 職場体験で、職場の方からその職業に就くためのアドバイスをもらう。 | |

表7 3時間目の授業後の感想

- | |
|--|
| ○ 今を大切に、将来の自分が幸せになるためにはどうした行動をすればよいか考えた。 |
| ○ 自分の将来のことを良く考えて、今やるべき行動を取りたいと思った。自分の体を大切に、自分らしく行動したい。 |
| ○ 将来の自分の夢に支障が出ることは絶対にしないと思った。 |
| ○ まだ将来の目標などがはっきりしていないので、これから色々情報を集めながら自分にあった目標を見つけたい。 |
| ○ 将来の夢はまだ決まっていけないけど、先生の話聞いて、今やるべきことをちゃんと考えたほうがいいと思った。 |

また、事後のアンケートによると、「将来実現したい夢があるか」の問いについては、「かなりある・ある」と回答した生徒が授業前で48.4%であったのに対し、授業後は77.0%となった（図4）。これは、授業の中で行ったシェアリングにより、多くの夢の存在や実現方法を知ったことから、自分の将来について参考になったことが推測される。しかし、中には、「将来実現したい夢がない」と回答した生徒が23.1%いた。しかし、これらの生徒の中にも自分の将来について考える必要性を自覚した前向きな記述がみられたため、今後、具体的な目標設定や行動選択につなげる支援をしていきたい。

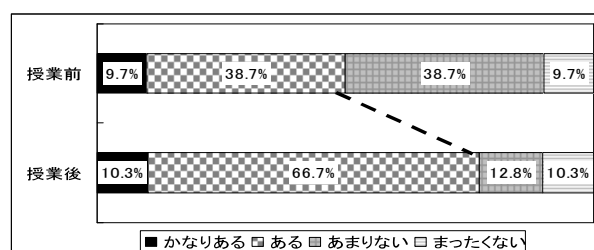


図4 将来実現したい夢があるか

以上の結果から、生徒の実態やニーズに応じた授業は、生徒に将来の夢や目標を身近なこととして考えさせ、その実現のために努力すべきことや排除すべきことの自覚が読み取れることから、望ましい行動選択を目指すための指導に有効であるといえる。

IV まとめと今後の課題

本研究は、ホームルーム活動における性教育として、生徒が正しい知識を身に付け、自分の生き方を考え、望ましい行動選択を目指すことができるよう実態やニーズに応じた授業形態を工夫した。分野の専門家等を活用した小集団の授業は、知識だけでなく、カウンセリング的要素も取り入れた内容の濃いものであったと考える。成果と課題は以下の通りである。

1 成果

- (1) 生徒に性に関する正しい知識を身に付けさせ、性交に対する肯定的な意識を変容させることができた。
- (2) 将来の生き方について考えさせることができた。
- (3) 望ましい行動選択を目指す態度がみられた。

2 課題

- (1) 性に関する正しい知識を習得させるための系統立てた指導計画が定着していない。
- (2) 将来の夢や目標が未決定の生徒への個別支援が不十分である。

これらの成果と課題を踏まえ、望ましい行動選択を目指す性教育について今後も研究を深め、今後の取り組みとしたい。

〈主な参考文献〉

- 木原雅子 2006 『10代の性行動と日本社会—そしてWYSH教育の視点』 ミネルヴァ書房
 針間克己 2003 『一人ひとりの性を大切に生きて』 少年写真新聞社
 田中紗世 2001 『「エッチなこと」から「大切なこと」へ』 農山漁村文化協会